

# いよいよよ流行の季節 予防が一番！インフルエンザ

流行前に  
予防接種を！



いよいよインフルエンザが流行しはじめる季節の到来です。インフルエンザは、39℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など強い症状が現れ、気管支炎や肺炎などを併発して重症化すれば死に至ることも。流行すると高齢者の死亡率が高まるなど、風邪とは大きく異なります。なにより大切なのは予防です。

## 普通の風邪とインフルエンザはまったく異なる病気です！

普通の風邪の症状は、のどの痛み、鼻汁、くしゃみや咳などが中心で、発熱はインフルエンザほど高くなく、重症化することはほとんどありません。

一方、インフルエンザは、39℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強く、併せて普通の風邪と同様の、のどの痛み、鼻汁などの症状も見られます。さらに、気管支炎、肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんなどを併発し、重症化することがある

のもインフルエンザの特徴です。

また、インフルエンザは流行が始まると、短期間に乳幼児から高齢者まで多数の人を巻き込むという点も普通の風邪と異なります。さらに、冬季は他のシーズンに比べて死亡者が多いのですが、インフルエンザが流行すると、高齢者での死亡率がふだんより高くなるという点でも大きな違いが見られます。

## インフルエンザと

### SARS

インフルエンザは、発熱と呼吸器症状を生じ、SARS

S（重症急性呼吸器症候群）の疑いを引き起こす可能性があるいくつかの疾患のうちのひとつです。しかしながらインフルエンザは、施設内や地域社会における集団発生と地域的流行の可能性があることから、特に懸念対象となっております。

呼吸器疾患によっては、気温や湿度が高い場合にはほとんど発生せず、気候が涼しくなると再度発生するようになるものはいくつかあります。

SARSの世界規模の集団発生は夏の間は封じ込められていましたが、インフルエンザシーズン中のSARSの再流行が否定できません。